

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明徳の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」



特集 学園祭

4 特集 学園祭

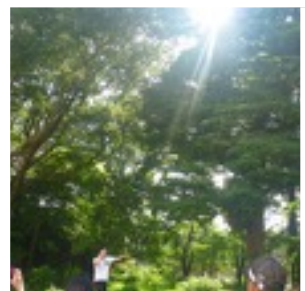
8 スペインからの学生を迎えて

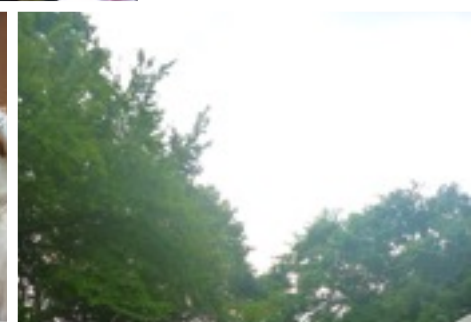
1年生

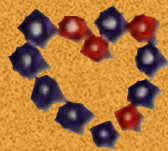
10 授業紹介「こどもと文化」

12 教員からのおすすめ

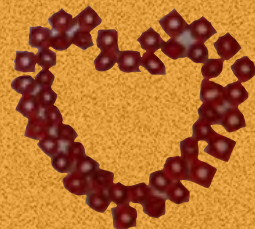
13 !Hot News!







特集 学園祭



田中 葵

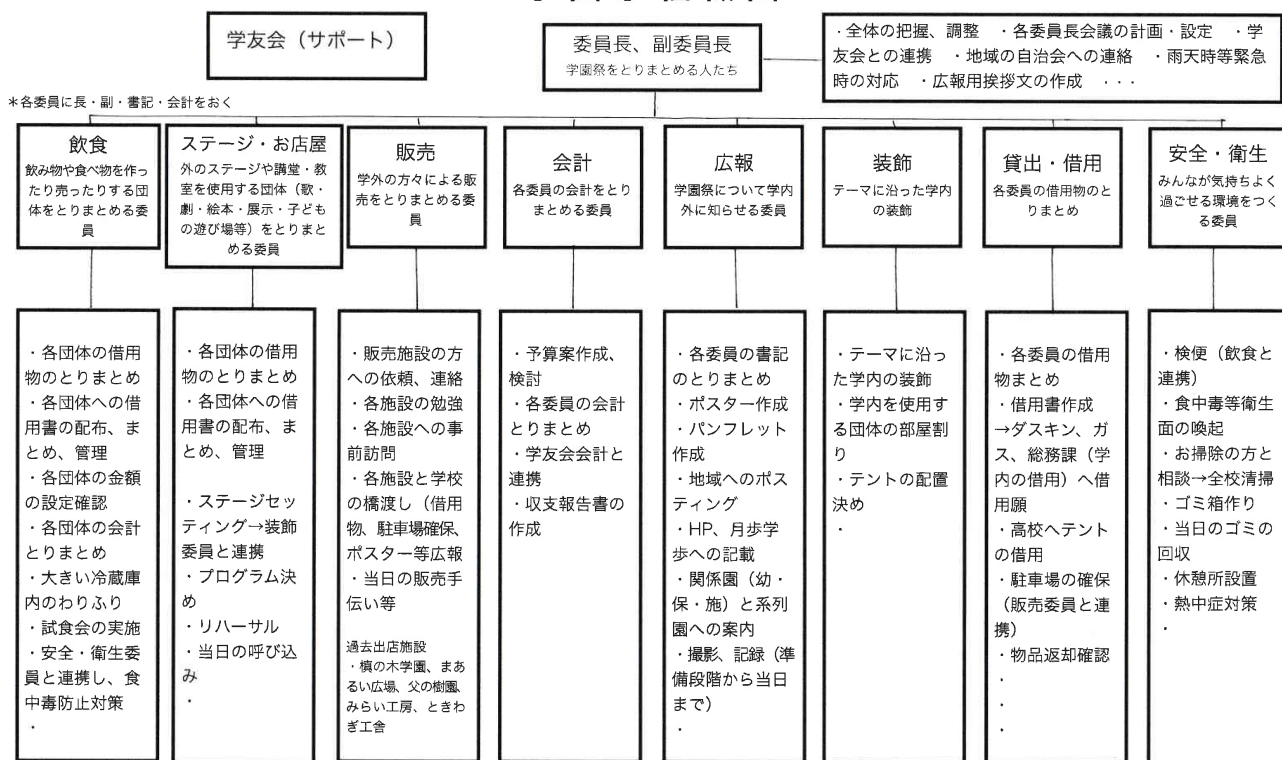
7月31日（日）、千葉明德短期大学の学園祭「めいとく広場」が開催されました。

▶ 学生生活支援委員

学園祭の委員募集が始まったのが5月半ば、テーマを決める話し合いや委員決定は5月末、多くの2年生が教育実習Ⅱで3週間不在だった6月、そして学園祭直前は試験や課題の嵐の学期末7月…学事日程的に、決して余裕のある日々ではなく、その間、ここでは到底書きつくせないほどのさまざまな出来事（喜び、涙、トラブル、すれ違い、感動、笑い…等々）がありました。

しかし、そのようなさまざまな出来事が起こったのは、委員たちが、たくさん話し合いや議論を重ねていたからです。各委員のおおよその内容とスケジュールは、紙面上で示してはいましたが、では具体的にどうしたらいいのか、自分たちで考え決断しなければいけないことがたくさんあり、迷ったり、すれ違ったり、怒ったり、悩んだりすることがあったと思います。それでも、学生皆さんが自分たちでどんどん考えて動いている姿を、日に日に多く見るようになりました。特に、学園祭前日と当日は、自分たちのしていること（仕事）への誇りで、委員の皆さんは輝いてみえました。当然、うまくいったことばかりではなく、細かく見れば、反省点はいろいろあると思います。それでも、自分で考えて動いて気づいたことは、前向きに次に活かせることばかりなはずです。ここで得た経験は、どのような場所（職場、組織）でも活かすことができることだと思います。本当にお疲れ様でした！

学園祭組織図



↑ 学園祭には、このように組織的に取り組んでいます。

それぞれの委員が、全体の中での自分の役割を考え、委員同士、連携しあって動くことが必要でした。



当日は、明德らしい、保育者を目指す短大らしい、学園祭であったように感じました。こどもを対象とした出店が多かったことありますが、来た方々が安心して楽しめるようにさまざまな工夫と配慮がされていました。(途中、ゲリラ豪雨に二度も見舞われ、どうするか決断を迫られたりもしましたが、委員長やステージ委員長が臨機応変に対応していましたね。) こどもたちをはじめ、来場者の方々の笑顔がたくさん見られました。

何より、委員の方たちがいなければ、学園祭は開かれていませんでした。楽しい学園祭を、本当にありがとうございました！

また、普段からお世話になっている「まあい広場」と「ときわぎ工舎」の皆さま、「わくわく体験研修」でお世話になっている富山県南砺市利賀村の方々、今年も出店していただき、明德の学園祭に花を添えてくださいました。ありがとうございました。

次ページからは、各委員の長たちから、学園祭をふりかえっての一言をご紹介します。また、この月歩学歩で使われている写真は、広報委員が撮影したものです。学園祭の写真特集ページは、14,15Pにも続いていますので、どうぞお楽しみください！



委員の皆さん、
素晴らしかった！
今後につなげよう！

平成28年度学園祭実行委員

委員長		副委員長	
46019	卯月琳	46067	染谷祐奈
		47066	坂田将

学友会	
46065	鈴木友斗
46011	伊藤克臣
47007	飯田琴乃
47091	田原広美
47004	栗ヶ窪瑠佳
47048	川名あゆ美

飲食	ステージ・お店屋	販売	会計
46061 杉本拓海	46069 高梨慎也	46015 岩井凜	46027 川崎青空
47006 李炫知	47106 花咲彩萌	47047 亀井湧介	46092 橋本淳
47008 五十嵐麻由	47121 松宮加奈	47055 工藤竜次	47011 石川里佳
47069 佐藤ちひろ	47128 森笑里		47139 山本明日香
47080 関根優月			
47111 藤澤渚			
47119 松尾実紅			
広報	装飾	貸出・借用	安全・衛生
46036 栗山恵里奈	46082 中島あかね	47010 石井玲奈	47056 國吉桃花
46044 小林英里佳	47050 木津夏海	47019 伊藤大貴	47065 酒井理沙
47082 高橋彩香	47089 立川奈波	47025 今村愛海	
47087 武田有結	47094 土居加奈美	47033 内山愛弓	
47109 広瀬育哉		47061 小柳葉月	
		47116 古澤結菜	
		47118 町山瞳大	

おつかれさまでしたー！

学園祭を終えて



卯月 琳

▷ 委員長

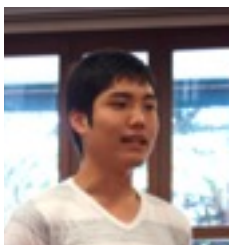
当日は、みんなが楽しそうにしている姿を見られたことが楽しく嬉しかったです。いろいろゴタゴタはあったけれど、結果的に良かったと思います。お化け屋敷も外のステージも、大人気でした。今回は各委員の方達に助けられました。私がみんなをフォローしないとイケない立場なのに、みんなが私をフォローしてくれました。「困ったことがあればみんな相談に乗るから。一人じゃないから抱え込まないで」と言われた時は、泣きそうになりました。みんなのことを愛しています。本当に**感謝**してもしきれません。



坂田 将

▷ 副委員長

自分は副委員長として皆をまとめたりなにか大きく動いたりしなかったもので、初の学園祭は先輩方や実行委員の人達に**何から何まで助けてもらってばっか**でした。正直自分は反省することばかりでした。しかし、本番当日を成功することが出来たのはとても嬉しく思います。今回のことは必ずこれかれに役立つと思うので学園祭での反省を次に生かしていきたいと思います。



高梨 慎也

▷ ステージ

ステージ委員は、**スケジュールの遅れ**がとても目立っていてなんとか**遅れを取り戻すことに専念**して仕事をしました。また、特に前日当日は各委員との連携を意識して活動し、雨の中でもなんとかステージ発表を終わらせることができました。



染谷 祐奈

▷ 副委員長

去年も学園祭の実行委員に関わっていたので、その経験を活かし、今回は副委員長として、委員長を支えながら一緒に協力してできたと思います。自分たちの仕事をやりながら、全委員会の動きを把握する事はとても大変でしたが、一番上に立ち何かをするというのは、自分にとって良い経験でした。当日は雨に降られ大変な事もありましたが、**学生全体の協力のおかげで大成功**でした。楽しかったという声をたくさん聞けたので良かったです。



杉本 拓海

▷ 飲食

飲食委員では、言葉の通り、飲食団体を取りまとめを担当しました。主な仕事は、検便の取締りや試食会の設定などを行いました。飲食は、会計や安全衛生、有志の飲食団体など色々な方々との連携が必要な委員だったので、とても大変でしたが、1年生のみんなも準備の段階から積極的に声をかけてくれたので、当日もとても楽しむことができました。大変ではありましたが、**やりがいのある仕事ばかりだったので、やりきることが出来て良かったです。**



亀井 湧介

▷ 販売

学園祭当日は途中雨も降ったりと天候が良くない中、たくさんの方が来てくださってとても嬉しかったです。足を運んでくださった皆様ありがとうございました。販売委員ではNPO法人などの施設の方に店舗のお願いをし、当日は打ち合わせをして、サポートするという役割でした。担当したみらい工房では、**施設見学もさせて頂き**、とても**いい経験**になりました。今回、初めての学園祭でわからないことばかりでしたが、先輩や先生などに支えてもらい何とか販売実行委員長としての役割を最低限できた気がします。今回経験したことを糧とし、来年の学園祭に繋げたいと思います。

委員からの一言

ありがとう♪



川崎 青空

▷ 会計

先生を含めた会計係はまだ学祭の後も活動がありますが、会計係は全員が1つ1つの仕事をそれぞれこなしてくれたのもあって無事学祭も楽しく終わることができました。今回の学祭で先生はもちろん会計係としての仲間と近づいていたと思います。とにかく最後の仕事が終わるまでまとめることはできませんが、**優秀な1年生、2年生、先生に私は感謝**です。



小林 英里佳

▷ 広報

最初、なかなか委員全体で集まることが出来ずに、仕事の量が偏ってしまいました。しかし、1年生や広報担当の先生、学園祭担当の先生が声をかけてくださって、一緒に作業をすすめてくれて、一番大変だった**パンフレット作成は学園祭前日に夜遅くまで残り、みんなで仕上げる**ことが出来ました。当日も写真撮影で走り回ってくれた1年生、アイデアを出してくれた先生方がいたから、無事に委員としての仕事を達成することが出来ました。



立川 奈波

▷ 装飾

装飾委員は、学園祭で装飾をするための装飾品を作ったり、学校を装飾したりしました。4人で活動し、学園祭に向けて沢山の工夫を施し、少しずつ華やかに仕上げてゆきました。装飾には1年生の授業時間を頂いたり、実行委員の方々にお手伝い頂いたり、沢山の皆さんに協力して頂きました。関係者のみなさまのご尽力に心から敬意を表します。当日まで仕事があり、とても大変でしたが、**なんとか学園祭を終えることができ、嬉しい限り**です。



酒井 理沙

▷ 安全・衛生

1年生は初めての学園祭でした！安全衛生は、話し合いの集まりをあんまりしていなかったため学園祭の前日までドタバタしていました。だけど、他の委員会の人も手伝ってくれて当日を迎えることができました。当日は、ゴミ箱とジャグの見回りと、救護室に来た人の対応をしました！広報委員の人が腕章を作ってくれて、ずっと救護室にいるのではなく、**学園祭を楽しむことができました！！**



町山 瞳大

▷ 貸出・借用

学園祭当日はほとんど仕事がなく、前日までの準備が大変でした。去年までは、同じ委員でもしてなかったことを今年から始めました。USBを使ってデータを保存したり、貸し出すものを1箇所にまとめていろんなところに行き来しないですむようになど、**去年までの学園祭を参考に**よりよくするために**改善**をしてきました。これを、来年、再来年と受け継いでいってほしいと思いました。おつかれさまです。



鈴木 友斗

▷ 学友会 会長

去年の学園祭は問題だらけで、後始末にあれほど苦痛だった学校行事は今までにありませんでした！その苦い思い出もあり不安なスタートでした。やはりこの大学の学園祭は、学生自らが創りあげていくという事で、細かいところまで考えて動かなくてははいけません。果たして今年は大丈夫なのか心配でしたが、今年の1年生は仕事熱心で、全員が頭の中パンクするほど学内外を歩き回っていました！そのおかげで、去年とは大違いでスッキリとした気持ちで学園祭を終えることが出来ました。委員長はじめとする、学園祭実行委員の皆さん、協力してくれた先生方、地域の皆さん、**素敵な時間をありがとうございました！！**

スペインからの学生を迎えて

教養基礎科目「フィールドワーク（通称：わくわく体験研修）」という授業で開設されているコースの一つ、スペインとの相互交流企画として、7月23日から8月1日まで、北スペイン・サンタンデルのアタウルフォ・アルヘンタ音楽学院から、フルート奏者である学院の教員と共に6名の学生が来日しました。滞在期間中の歓迎企画を中心的に行ったのは昨年のスペインに行った卒業生たちでしたが、2年前にスペインに行った卒業生、今年9月にスペインに行く現役学生も、さまざまな場面で参加し、スペインの学生たちとはもちろんのこと、3代にわたる明徳の学生同士での交流の機会となりました。皆、言葉や文化の違いを越えて関わり合いたい思いは共通です。

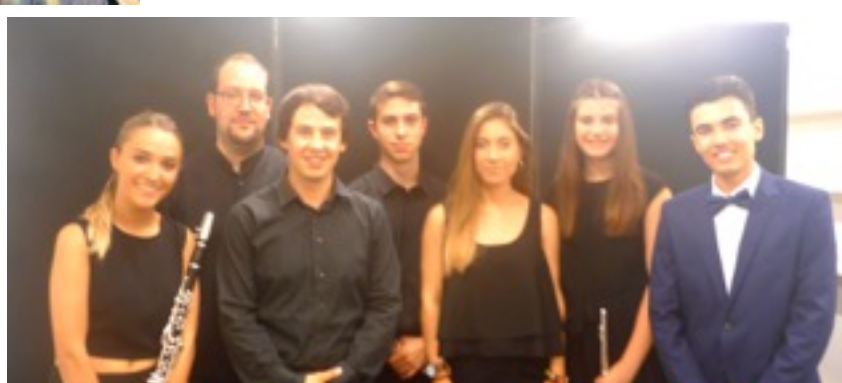
また、卒業生や現役学生のご家族には、スペイン学生のホームステイ先として温かく受け入れていただきました。普通の観光旅行では成し得ない貴重な体験です。さらに、明徳土気保育園の園長・北村先生もホームステイ先として学院教員を受け入れてくださり（ちょうど北村先生の息子さんと同世代だったようです!）、さらにそのつながりで、明徳土気保育園での音楽を通じた交流会にて、こどもたちと保育者の方々から素晴らしい歓迎をしていただきました。さまざまな方々のお力とご協力があったりなっていることだと感じました。皆さま、本当にありがとうございました。（田中）



↑ ↓ 成田空港にて。ハグと涙の再会。
サロンでたこ焼きパーティー体験。→
↓ ↓ 東京観光



↓ スペイン国営のセルバンテス文化センター東京にて、「スペインと日本、音楽の出会い」コンサートでの演奏者たち。楽器は、左からクラリネット、フルート、チェロ、アコーディオン、アコーディオン、フルート、ピアノ。明徳の卒業生たちも手話合唱を発表しました。





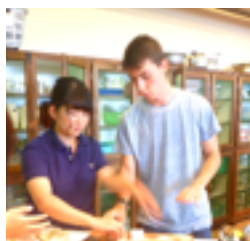
明德土気保育園では、こどもたちによる土気保育園の園歌、保育者の方々による和太鼓演奏など、言葉を越えた交流会により歓迎いただきました。

👇 スペインメンバーも日本の和太鼓や横笛に挑戦！

👇 明石ゼミとの縁日体験、田中ゼミと盆踊り、そして豚汁づくり



成田空港でお別れ…また会う日まで！ Hasta Luego!





本年度から「児童文化」という授業が「こどもと文化」という名称にリニューアルされました。名称が変わったことは単なる看板の塗り直しではありません。「児童文化」という言葉は、日本では大正時代に生まれた言葉ですし、養成課程においてどの学校でも保育者たちが必ず学んできたものです。この4文字熟語に込められた学童時期の子どもに対する思い、保育者が関わる乳幼児期の子どもたちとの年齢的な特徴、子ども自身の文化との関わり方、学生たちの現状などが、近年になってからしばしば指摘されるようになりました。児童と文化との間に入れるべきつなぎの言葉が“の”なのか、“と”なのか、という議論を始め、時代とともに保育を学ぶ学生たちの社会文化的な属性、生活の仕方により変動する知識やスキルの現状にどのように応えれば良いのかという議論まで、この教科自体のあり方について本学の教員も考えてきました。「児童文化」が「こどもと文化」に変わった背景にはこのような理由があります。“児童”という言葉がやや硬い漢語ですし、つなぎの言葉が“の”の場合と、“と”の場合とでは意味も大きく変わります。

この授業の内容として学ぶテーマ自体は、ここ10年の間に実践されてきたものとそれほど大きく変わったわけではありません。基本的な知識内容や基本的な技能（スキル）は、言って見れば、保育者たちの基礎教養となっています。人間が暮らす世界や人間自身について何かを伝えたい時に使われる、様々な子ども向けのメディア…つまり絵本や紙芝居、素話、詩文や歌、手遊び、パネルシアターなどの特性をよりよく知ること、機会に応じて人形などを持って演じたりすること、子どもたちの年齢を配慮してこれらのメディアを適切に選択できること、そして自分でも使えるようになること。この授業の前期において基本的なテーマとなるのはこれです。

しかしながら、本年度から大きく変わった点が数点あります。

- まず大きく変わった点が、本授業が Semester 制になったことで、成績が Semester ごと、つまり前期と後期との両方に対して評価されることになりました。
- 授業の運用の仕方も大きく変わった点です。私としては大きく改善されたと言いたいです。従来通りの運用では、1学年を半々に分けてローテーションしていたため、時には70名以上の1年生が、細長い教室にびっしりと机を並べる状況下で授業を受けていました。教室の形からして、授業でできることは厳しく制限されていたことは、学生にとっても、また教員にとっても悩みの種でした。しかし、本年度から池谷先生が職場復帰され、担当教員が3名となったことで、学生たちをより少人数のグループに分けることが



可能となりました。そして、手前味噌に聞こえても仕方のないことですが、その効果が劇的だったと言わざるを得ません。学生たちの授業への集中度が劇的に改善され、教員もより自由に動いて、一人一人の様子を見ることができるようになりました。このような改善ができたことは、とりわけ学生にとってのメリットが大きいです。授業に集中できるかできないかは、学生自身の興味関心も一部にはあるでしょうが、やはり学ぶ環境自体に大きく左右され、その結果が、結局本人の成績に響いて来るのです。

● もう一つの改善点と言えば、それは担当教員の役割分担が明確にできたことだと思います。それぞれの教員がより得意とすることなどを生かし、それに応じて授業自体の運用の仕方を変えることができました。「こどもと文化」という視点から見ると、伝えなければならないことが、焦点を厳しく絞ってみても、膨大です。他の授業（例えば発達心理学など）とのつながりも考えると、学生たちも大好きな実技ばかりを授業内容にするわけにはいかず、座学、つまり教員のレクチャーを能動的に聞くことも必要になります。ついでに言いますが、こう言った学び方を、多くの方が勘違いして、受動的で“つまらない”、効果の薄いパッシブ（受動的）な学び方などと思っているようで、今おはよりの“アクティブ・ラーニング”ではないと否定されがちです。しかし、それはおそらく何かの誤解か勘違いだと言わざるを得ません。座って話を聞かなければならない時、私たちの体自体が動きを制限されてしまうのは事実ですが、注意を向け、そして維持していくこと自体に“心”の能動性が欠かせません。つまり“心”で“関わる”ことです。もっとはっきりと言えば“関心”を持つことです！ 関心ができなければ、人間は何も学べませんね。私はこの漢字、“関心”という文字を見るたびに、この文字を工夫して考えた昔の人に感心します。学ぶことの本質をあまりにも見事に表現しているからです。ただ一つの文字で！ もしかすると、今の私たちよりずっとスマートな人々だったのではないかと思ったりもします。

但し、自分も能動的に体を動かすことが好きで、またそのように実際に動いて初めて理解できることも多々あります。自分でも動いてみる、自分でも挑戦してみるものが実技の部分です。池谷先生の復帰により、学生たちが学ぶ空間だけでなく、レクチャーと実技の時間配分も大きく改善できました。教員の話だけが90分続くことがなくなり、どの授業、そしてどのグループにも池谷先生の楽しい実技が登場するようになりました。

● そして、最後になりますが、4つ目の改善点は前期の最後に簡単な試験を導入したことです。学生も教員も共にいくらか負担が増しましたが、どのようなことをプレゼンテーションするのかを学生が選択し、全学生が教員によるチェックを受けることで、やはり取り組みの意識も変わります。そのメリットを無視することはできません。

以上で述べた授業改善の成果が、学生たちの日々の取り組み姿勢のみならず、前期終了時に提出しなければならなかったポートフォリオの中身からも、はっきりと読み取れました。本年度の1学年の平均的な成績が、前年度までに比べてかなり上がっていると言えます。それは本当に何よりです。

後期からの主テーマは、「保育者がこどもへ伝える“文化”」より、「保育者とこどもが共に作る“文化”」とも言える“遊び”にシフトしていきます。保育は、とりわけ日本の伝統的な保育文化においては、保育の中心は遊びです。その遊びを理解することは、一見してとても簡単で、誰にでもできそうな気がするでしょうが、実に難しいのです。可能な限り時間をかけて、遊びのすばらしい世界について一緒に学びましょう。後期の最後のテーマは保育の中で大切に伝承されて来た年中行事の文化となります。学生たち自身の取材力なども大いに試されることになるので、能動性をたっぷりと発揮できることを期待しています。

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

今年度の第3回目は、由田先生から皆さんへのおすすめです。

PROFILE



教員名

よしだ あらた
由田 新

担当科目

教育原論、保育内容
総論、保育者論、保
育内容演習、保育方
法演習

メッセージ

世の中、意外なとこ
ろにオモシロイことが
ころがっています！

ちょっと見方を変えたりすると、当たり前のも
のが当たり前でなくなったり・・・。一見
変なものが、変じゃなくなったり。頭をちょ
っと柔らかくすると、楽しいですよ。おまけに、
そういう感覚は、保育
やこどもを理解することと繋がってそう・・・
な気がしませんか？！

“Eテレ”はオモシロイ！

早いもので、この企画も2巡目だそうです。前はEテレの“デザイン・あ”をご紹介しましたが、今回も、懲りずにテレビです。え～い、めんどくさい、“Eテレ”はオモシロイぞ！

そうなんです。どうせ受信料を払っているのなら(?)見なきゃ損損の“Eテレ”です。大昔は、「教育テレビ」などという名前で、結構堅苦しい感じもありましたが、この頃は硬軟自由自在。こんなことやっていいの(?)というような番組も結構あります。

面白い番組はいろいろあるのですが、その中でも、今回は、“Eテレキッズ”という時間帯についてです。新聞の番組表をみると、・・・6.25体操◇40Eテレキッズアニメ▽日本語▽0655▽シャキーン▽かっぱ▽あ▽ピタ▽コレナンデ▽みいつけた▽おかあさん▽いないばあ▽えいご▽アニメ▽絵本・・・

こんな調子で、9時まで短い番組がたくさん連なっているんですね。題名をみても略語になっていてなんだかわけがわかりません。“ピタ”は有名なピタゴラスイッチ、“おかあさん”はおかあさんといっしょだとわかりますが、あとは???

“0655”なんてなんのことやら。夜には“2355”という対になる番組まであるようです。この日にはありませんでしたが、“おとうさんといっしょ”というのまである...。今回は内容をあえて説明しませんが、この中に必ず大人であるみなさんの“ツボ”にもはまる番組があると思います。私のオススメは定番の日本語であそぼう、シャキーン、ミミクリーズ、0655・2355あたりです。

子ども番組だからと侮ることなかれ、適当に作っているわけではなく、大マジメにやっている。子ども向きという形を逆手にとって、大人が本気で面白がって遊んでいるように思えます。大人が見ても、へえ～そうなんだということやハッとさせられることが一杯。そして可笑しい。実は、子どもと一緒に見ている大人向け？

なんだか知的な好奇心を刺激されます。ぜひ、録画して見てみてください！

免許更新講習



今年も8月19日（金）～24日（水）まで、本学にて教員免許状更新講習を開催しました。台風が来ていた中、各地より参加された多くの先生方、お疲れ様でした。

卒業後1年目の私たち



2015年3月に明德を卒業した44回生からの発案により、44回生と明德をつなげる企画として、さまざまな場所で働く同期の「今」を届ける冊子を発行しました。同じ時間と場所を過ごした仲間が、卒業して1年間、それぞれ自分のいるところで、喜んだり、悩んだり、葛藤したりしている、ひとりひとりの歩みを共有することで、明日への活力につながればという願いが込められています。学生の皆さんも、いつかは卒業しますが、

オープンキャンパス × 2

8月7（日）・28（日）オープンキャンパスを開催しました♪

7日の体験授業 🍌 「内なる音、内なることば」「多様な背景をもつこども」

28日の体験授業 🍌 「子どもの気持ちを考えてみよう」

オープンキャンパスでは、毎回、学生スタッフが活躍しています♪ まだスタッフを経験したことのない学生の参加もお待ちしています。

次回は、9月25日（日）、体験授業のテーマは「子ども家庭福祉いろいろ」です。学生スタッフの皆さん、一緒に楽しみましょう！



わくわく体験研修



行ってきま〜す♪ 1年生の皆はどこに行く？

全7コース

- スペイン「芸術という分母～スペインの文化に触れて」
- 岩手県「昔話が息づく町・遠野」
- 富山県「生活と文化を考える～富山県利賀村研修」
- 鹿児島県「鹿児島のこども、大人と出逢う」
- カンボジア「世界の最貧国・カンボジア」
- ネパール「Sense of Wonder in Nepal」
- 富士山「富士山の頂から観る～登山と自然、自分自身を考える～」

Meitoku Snap





Meitoku Snap



↑ 「こどもと文化」での授業風景

編集後記

今号で特集した学園祭、気がつけばあれから1ヶ月以上が経ちましたが、広報委員が鋭く捉えた学生皆さんのさまざまな豊かな表情の写真を見て、改めて胸がいっぱいになりました。さて、明徳の夏は学園祭が終わったと思ったら、2年生は学生最後の実習「保育自習Ⅱ・Ⅲ」と「わくわく体験研修」、1年生は授業やボランティアと、ぎゅっとなつまっています。次号は、そのぎゅっとなつまった実のひとつ「わくわく体験研修」を特集します。お楽しみに！さあもうすぐ後期が始まりますね。これまでの経験を糧に、実り豊かに歩めるよう、英気を養いましょう。(田中葵)

編集：田中葵 鶴田真二

- 読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。



発行：千葉明徳短期大学 千葉市中央区南生実町1412

- Tel:043-265-1613
- Fax:043-265-1627
- mail:tandai@chibameitoku.ac.jp
- web:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html
- blog:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai/campaslife/blog/htr

明徳の9月

3	土	保育体験Day (高校生)
5	月	保育実習Ⅱ・Ⅲ事後指導
6	火	(2年生)
7~ 20	水	わくわく体験研修 (2年生)
9	金	保育実践研究会
10 11	土 日	AO入試1期
16	金	後期授業開始 (1年生)
16	金	まんぷくCAFE
20 21	火 水	乳児保育ボランティア (1年生)
21	水	後期授業開始 (2年生)
21	水	就業のための説明会①
22	木	祝日授業 (1年生)
25	日	オープンキャンパス
26	月	就業のための説明会②

明徳の10月

1	土	内部生入試
11	火	わくわく体験研修報告会
16	日	オープンキャンパス
15 16	土 日	AO入試2期